

第 60 回

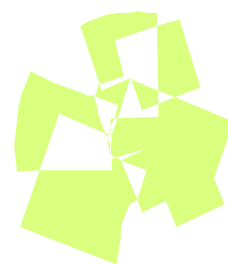
日本脈管学会総会が

10月10日(木)~12日(土)に
京王プラザホテルにて開催されます。

当院からは、

血管外科センター長 今井 崇裕 先生が

学術発表をされますのでご紹介します。



第60回 日本脈管学会総会

The 60th Annual Meeting of Japanese College of Angiology

連携と融合そして進化

Collaboration, Fusion and Evolution



会期

2019年10月10日(木)～12日(土)

会場

京王プラザホテル

〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1

会長

宮田 哲郎

(山王病院・山王メディカルセンター 血管病センター)

演題募集期間

2019年4月2日(火)～5月15日(水)

URL

<http://convention.jtbcom.co.jp/jca60/> (11月中旬公開)

パネルディスカッション

血管内治療による下肢静脈瘤に対する治療戦略

「 当院における血管内焼灼術の治療成績

-再発から学び、更なる治療成績の向上へ- 」

西の京病院血管外科 今井崇裕

【はじめに】 現在国内において血管内焼灼術は下肢静脈瘤の標準術式になった。当院で施行した血管内焼灼術の短期および中期成績を検討した。

【目的】 下肢静脈瘤治療は遠隔成績に課題があり，治療成績を検討することで，今後の治療戦略へ反映させることを目的とした。

【対象】 2013年1月-2018年12月。血管内焼灼術を施行した4,779例 (M:1,606/ F:3,173, 64.8±12.8歳)。GSV:3,619/ SSV:1,160例。

Laser980nm:480/ Laser1470nm:2,314/ Closure FAST:1,985例。

【方法】 観察期間は術後12ヵ月，超音波で評価した。再発の定義は，開存または閉塞断端が深部静脈合流部から50mm超過例とした。検討項目は以下である。SFJ/ SPJからの閉塞断端(mm)，合流部の分枝血流，焼灼血管の消退率[術後径/ 術前径 x100](%)。再発例は術前のMR venographyを参考に，経時的変化をビジュアル化して評価した。

【結果】 再発は37例(M:8/F:29, 71.2±10.2歳)，全体の0.77%であった。内訳はGSV:19/ SSV:18例，Laser1470nm:13/ Closure FAST:24例。早期では開存3例/ 50mm以上で閉塞8例。中期では50mm以上で閉塞25例。閉塞断端の新生血管1例。消退率は早期33.4/ 中期41.6%。血流のある分枝は早期0.53/ 中期1.14本。

【考察】 早期再発はGSV例が多く，中期再発はSSV例が多かった。GSVでは焼灼血管が長期的確な焼灼手技が不可欠であり，SSVは平均91.5日で再発していることから，慢性的な膝関節の屈伸や腓腹部の筋ポンプ作用などが血流再開に影響しているのではないか。

【結語】 再発例は早期と中期に分けて考える必要があり，術前に治療血管を適切に評価することで，さらに治療成績が向上すると思われた。

特別企画 脈管チームに於けるチーム医療の展望

「地域を巻き込んだチーム医療の実践

・地域活性化と質の高い診療を目指して・」

○今井崇裕¹ 和田小百合² 黒瀬満梨奈² 仁科 健³ 山中一朗³ 小谷敦志⁴
市橋成夫⁵ 吉川公彦⁵

¹ 西の京病院 血管外科

² 西の京病院 看護部

³ 奈良県総合医療センター 心臓血管外科

⁴ 近畿大学医学部奈良病院 臨床検査部

⁵ 奈良県立医科大学 放射線科

【はじめに】脈管診療に於いて CVT をはじめとした様々な資格が誕生し、専門診療におけるコメディカルの役割は大きく、質の高い診療にはその協力体制は不可欠になった。今回、地域を巻き込んだ当科のチーム医療の取り組みを紹介する。

【理想の診療】当科の目指す診療は「治療」、「学術活動」、「地域啓蒙」の3つをバランスよく高い水準で実践することである。「治療」では最大限に効率化して、多くの患者さんと接することで、技術の向上に努めている。「学術活動」では、学会や勉強会への参加を積極的に促し、正しい知識を得る多くの機会を提供している。「地域啓蒙」は学んだ知識や経験を、市民や他の医療従事者へ伝える院外活動である。おろそかになりがちだが、医療従事者の大事な努めである。これまで県下の医療機関と連携して、さまざまな活動を行ってきた。

【NARA ソックス・プロジェクト】2016年9月、NARA ソックス・プロジェクトを立ち上げた。プロジェクトの目的は2つある。自然災害の多い日本で、静脈血栓塞栓症の予防として弾性ストッキングの着用を普及させること。そして奈良県の名産である衰退した靴下産業を活性化することである。奈良県には「靴下の町」と呼ばれる広陵町があり、100年以上靴下を作り続けている。日本を代表する「ものづくり」である。ここを舞台に奈良県の5つ医療機関、大学生、靴下会社が連携を取り活動している。ストッキングを製作して下肢周囲径と圧迫圧、超音波で膝窩静脈の血管径と最高血流速度の検証を繰り返した。その結果、市販されている医療用弾性ストッキングと同等の効果が確認された。この活動が静脈血栓塞栓症の啓蒙と地場産業の復興に繋がることを願っている。